

多様性と平等の中での経済の役割

愛媛県・愛媛県立松山西中等教育学校 4年 宇都宮 快斗

今現在、日本を中心とした国際社会では、多様性の尊重や平等という言葉が多く叫ばれている。私自身も、そう感じる事が非常に多くなってきた。多様性とは、大辞泉によると、

「いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。」

という意味だそうだ。人種、性別、宗教など多くの具体例が挙げられるであろう。平等とは、

「かたよりや差別がなく、みな等しいこと。また、そのさま。」

という意味だそうだ¹⁾。確かに、人類が共存・共栄していくためには、どれも必要不可欠なことであろう。また、それに加えて、国際社会で繰り返し、強く叫ばれている理由も納得ができる。

しかし、私はここで一つの問題を提起したい。果たして、これら両方を同時に追い求めていくことが、人類にとって可能といえるのだろうか、ということである。金融と経済に関する側面から、深く掘り下げて考えていきたい。

それは外国人労働者に関することである。日本人ではなく、外国人労働者を雇うメリットは何なのだろうか。それは、主に四つ挙げられると思う。一つ目は、少子高齢化が進む現代日本社会において、若い労働力が確保できるということ。二つ目は、人件費を削減できるということ（低賃金であるということ）。三つ目は、外国人と交流する機会が増えることで、文化・慣習の多様性について学べ、加えて、語学能力の向上に繋がるということ。四つ目は、労働意欲の高い人材が多いということ²⁾。この中でもとくに注目すべきは、二つ目と三つ目である。ここで、私が先ほど述べた問題が発生する。つまり、多様性の尊重と平等という二つのことが同時に実現されていないのである。確かに、多様性は尊重されているが、賃金の面において、平等でない。肌の色が違うからといって、賃金が違っていいのだろうか。技術や経験が劣るからなどという理由であっても、

差別されることがあってはならない。

では、この問題に対して、社会はどう行動することができるだろうか。私なりに考えた上で、出した案が二つある。

一つは、違法な低賃金が発生することの無いように、法律に基づき、厳重な調査を定期的に行うこと。この調査は、金融庁・法務省・労働局といった各機関が連携して行なうことが必然になってくるであろう。また、少なくとも半年に一回は行なうのが理想である。これは、今すぐにでも始められることだろうから、早急に検討してほしい。

そしてもう一つは、国際貢献のための基金を設立することである。これこそが特にこれからの世界で重要視されるべきだと考える。詳細に説明すると、まず、外国人労働者を雇う会社が、賃金とは別に「国際労働力向上援助金」という名目で財源を確保しておく。また、それらの会社全てが協力して、「国際労働力向上基金」を設立する。そして、それらの会社が月単位で収益の1から2パーセントを目安としてその基金に拠出する。ここで重要なのは、その基金を外国人労働者の出身国別の割合と同比率で分割することである。こうすることによって、二国間で互いに交流すればするほど利益を生むことができる。非常に効果的な経済成長も見込めるだろう。そして最後に、実際にその基金を世界中の国々に配るのである。これは、1年単位が望ましいだろう。そうすることで、年度ごとの国別外国人労働者数を把握することができ、それ以降のこの「国際労働力向上基金」の改善に繋げることができる。

この「国際労働力向上基金」の目的は、外国人労働者が生んでくれた利益を日本だけに留めること無く、世界規模での発展に寄与することである。そのためには、大前提として個々の深い理解が必要だ。一人一人が問題を知ることから始めてほしい。知恵こそ最大の武器だ。

これらのことからわかるように、やはり、多様性と平等という二つの事柄を一樣に追い求めることは非常に難しい。しかし、ある一連のプロセスにおいて、それら両者を実現することは可能である。私が提示したように、多様性の中から平等へと繋がる道を模索し、実現するといった方法も一つの例だ。また、それらのプロセスを思案する点において、「世界規模の発展」というキーワードを忘れてはならない。日本だけの問題と捉えることなく、広い視野を持って、問

題に対処していこうとする気持ちが大切だ。金融・経済を通して、多くの問題を解決することができるということが強く感じられた。また、難しそうだから、という理由で自分から遠ざけてしまっていたが、大いなる可能性が秘められた分野だということに気付くこともできた。今回だけで終わることなく、私自身の将来のためにも、これからも金融・経済について密接に関わり、考えていきたい。

(注)

1) goo国語辞書 (小学館提供『デジタル大辞泉』)

URL <http://dictionary.goo.ne.jp/jn/>

2) FLAGS「外国人労働者雇用のメリット・デメリットと助成金の活用」

URL <http://www.flag-s.jp/recruit/pros-and-cons-foreign-employees/>

